

第5節 環境施策の横断的・総合的な取組の推進

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

市民・事業者が本計画で目指す将来像について理解し、行動・活動している都市を目指します。具体的には、「持続可能な都市」についての理解を進めるための環境教育・学習の推進や、産学官民が連携した環境保全対策を進めることで、将来像の実現に向けてすべての主体が環境保全対策に取り組み、経済や社会の好循環を目指します。

- ・多くの市民が本計画で目指す「持続可能な都市」について理解し、自ら行動している
- ・北海道内の資源やエネルギーの地産地消を促進するため、札幌市と道内自治体をはじめ、様々な主体による連携が普及している

◆関連するSDGs

ターゲット 4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
ターゲット 9.4	2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
ターゲット 11.a	各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部の良好なつながりを支援する。
ターゲット 17.17	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

2 施策の実施状況・課題

(1) 幅広い世代への環境教育・学習の推進

ア 札幌市環境教育基本方針

札幌市では、重要な課題である地球環境問題に焦点を当て、環境教育をより実効性のあるものとし、一層の推進を図るため、2007年3月に「札幌市環境教育基本方針」の改定を行いました。

本方針では、環境教育の基本的な考え方や、環境教育の進め方として、家庭・学校・地域・職場におけるそれぞれの場の役割と取組の柱について示しています。

さらに、地球環境問題に対応するための重点行動として「省エネルギー」、「ごみ減量・リサイクル」、「水とみどり」の3つを定めました。また、重点化する対象を「子ども」とし、学校における環境教育を重視することとしました。

イ 主な環境教育・学習拠点施設

札幌市では、環境教育のより一層の推進を図るために、環境教育・学習拠点施設をはじめとした環境教育関連施設同士の連携を深めることで、効果的な環境教育の場を提供することを目指しています（表2-5-1）。

表 2-5-1 主な環境教育・学習拠点施設

環境 プラ ザ	施設概要		身近な環境問題から地球規模の環境問題を考えることができる展示コーナー、環境に関する講座・研修・会議といった、多目的に利用できる研修室、ミーティングルーム等
	主な事業	情報収集・情報提供事業	環境に関する施設・団体の紹介や、子ども向けの環境情報をホームページ等で提供している。また、環境関連の書籍、雑誌、ビデオ、DVDの貸出を行っている。
		広報・啓発事業	展示コーナーにおいて、隔月でテーマを決め、来場する市民へ環境情報を提供しているほか、市民等の環境保全活動への参加を促進する事業(幼児親子、小学生、一般向けなど)を企画し実施している。
		環境保全活動支援事業	小中学校における環境学習の施設見学の受け入れや、各種環境関連講座の開催、人材派遣事業、こどもエコクラブ支援事業、自然観察に必要な機材や環境教育教材の貸出を行っている。
リサ イクル プラ ザ	施設概要		リサイクル家具等の展示コーナー(24日から月末前日までは市民交流広場)、情報提供コーナー、資源回収コーナー
	主な事業	リサイクル品展示・提供事業	再使用を希望して大型ごみ収集センターに申し込まれ、発寒工房で簡易修理した木製家具、自転車等を展示、抽選形式により安価で提供している。
		ごみ減量活動支援事業	市民交流広場、各種教室講座等の開催、エコキッズスクールの実施の他、施設見学・総合学習への対応等を通し、市民のごみ減量活動を支援している。
		情報収集・提供事業	ごみ減量に係る情報展示、関係図書・ビデオの閲覧・貸出の他、情報紙「ごみニュケーションさつぼろ」の発行、ホームページでの情報提供を行っている。
リユ ース プラ ザ	施設概要		リユース家具等を展示販売している屋内展示場、情報展示などを行っている事務室、市民工作教室を開催する工房、屋外イベントスペース、厚別地区リサイクルセンター(資源回収拠点)など
	主な事業	リユース品展示・提供事業	リサイクルプラザと同様に、再使用を希望して、大型ごみ収集センターに申し込んだ家具等に簡易修理を施した後、即売形式により安価で提供している。なお、自転車のみ抽選による販売
		ごみ減量活動支援事業	廃材を利用した木工工作教室など各種教室講座の開催を始め、環境への取組に関する内容のエコイベント、地域住民や市民団体などとの協働によるイベントの開催の他、各種のイベント参加等を通し、市民のごみ減量活動を支援している。 また、さまざまな資源物を1カ所に持ち込むことが可能な拠点として「厚別地区リサイクルセンター」を併設しており、再資源化への市民参加促進を行っている。
		情報収集・提供事業	ごみ減量に係る情報展示の他、ホームページでの情報提供を行っている。
円 山 動 物 園	施設概要		北方地域に生息する動物及び絶滅の危機に瀕した動物を含む多くの動物を飼育・展示する施設(動物との触れ合いができることも動物園など)
	主な事業 (取組)	展示の工夫	動物達が抱える地球規模での環境問題について、説明看板等でわかりやすく解説したり、動物の命を身近に感じる工夫を取り入れることにより、入園者が自発的に環境に配慮した行動をとる動機付けの場となるよう取り組んでいる。
		教育プログラム	入園者に命の大切さや環境問題について学んでもらうための取組の一つとして、動物の飼料を保管する冷蔵庫へのガイドツアーや、園内動物病院にて、獣医体験や骨格標本解説等を行っている。
		情報提供	総合的な学習の場として動物園を利用していただくために、ホームページで教材の配布を行っている。
水 道 記 念 館	施設概要		展示室全体で大自然から都会そして海へと向かう水の旅を表現し、水道を通して自然環境と人間の関わりを考え、水や自然の大切さを感じ取ることができる施設
	主な事業 (取組)	展示の工夫	体験型の展示物を多数設置し、楽しみながら水道について学べるよう工夫を凝らしている。また、更に理解を深めてもらうために、隣接する藻岩浄水場の見学ツアーや、ろ過実験などを毎日実施している。
		広報・啓発事業	小中学校における環境学習の施設見学の受け入れ、「水道フェスタ」や「秋まつり」といった大規模イベントや、水にちなんだ工作会などを実施し、多数の来館者に、水道事業や水道の仕組み、さらにはその背景となる自然環境や水資源の大切さを学ぶことができる場を提供している。
		情報提供	ホームページで小学生向け学習プログラムの提供を行っている。
下 水 道 科 学 館	施設概要		下水道のしくみや水環境の保全に果たす役割など、札幌市の下水道の知識を楽しみながら理解してもらう広報施設。平成30年3月に展示物をリニューアルし、体験型の展示を通じて、新たな発見や驚きを実感できる内容が盛り込まれている。
	主な事業 (取組)	広報・啓発事業	下水処理のしくみ、下水道の役割、札幌市の下水道事業を市民に理解してもらうために、子どもたちが気軽に楽しめるイベントを開催する等、入館者の来館促進のための企画を行い、実施している。
		小学校バス見学支援事業	環境教育の一環として、下水道科学館及び創成川水再生プラザを見学する小学校を対象として、バス貸切料金を支援する事業を実施。
		情報提供	下水道科学館のホームページで、イベント情報を閲覧できたり、下水道のしくみや下水処理に登場する微生物を紹介する等、積極的に情報発信を行っている。
豊 平 川 さ け 科 学 館	施設概要		さけ科魚類や札幌市内の水辺に生息する生物の飼育・展示、さけのエサやり体験・産卵観察ができる屋外観察池等
	主な事業 (取組)	学習支援	さけの生態や生息環境を通じ、環境保全について学んでもらうための取組の一つとして、小学校等の団体学習の受入及び支援を行っている。
		情報提供	さけ科魚類に関する情報展示・関係図書の貸出・閲覧の他、ホームページでの情報提供を行っている。
		連携事業	円山動物園・教育委員会(学校を除く)と連携・協力し、外来種の問題に関する普及啓発活動等を行っている。

ウ 環境教育・学習事業

(ア) 総合的環境教育・学習事業

a 人材派遣事業(環境保全アドバイザー制度、環境教育リーダー制度)

学校の環境学習や市民等の自主的な環境教育・学習を支援するため、市が委嘱した環境保全アドバイザーや環境教育リーダーを派遣しています。

2017年度の環境保全アドバイザーの派遣回数は44回(利用者

数1,398人)、環境教育リーダーの派遣回数は100回(利用者数3,869人)でした。

b 環境副教材

札幌市では、「総合的な学習の時間」等に対応して環境副教材(1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用の3種類)を作成し、市内全小学校新1、3、5年生の全児童に配付しています。

c 校外学習用バス貸出事業

学校における環境教育を効果的なものとするために、環境関連施設の見学や自然体験など、環境教育に関する校外学習を行う小

中学校向けに校外学習用バスの貸出を行っています。2017 年度は 52 校（バス利用台数：110 台）への貸出を行いました。

d 環境教育へのクリック募金事業

環境保全活動に取り組む参加企業のバナーへのクリック数に応じて、企業から寄附を募り、子どもたちへ環境教育教材を寄贈する企業の社会貢献活動の仕組みです。2017 年度は、希望のあった市立小中学校 43 校に環境教育の教材を寄贈しました。

e さっぽろこども環境コンテスト

「さっぽろこども環境コンテスト」は、小学生・中学生が普段学校や地域で取り組んでいる環境保全活動について発表することで、周囲の子どもたち、さらには大人たちにもその活動の輪を広げていくことを目的として、2008 年度から実施しています。

2017 年度は札幌エルプラザ公共 4 施設ホールにおいて開催し、学校外団体の部 4 団体、小学校の部 2 団体、中学校の部 4 団体による取組の発表・表彰を行いました。また、最優秀賞を受賞した団体は、市長の前で報告会を行いました。

f さっぽろ市民カレッジ

市民の自己充実や生きがいづくりを支援するとともに、学習した成果を地域社会の発展などにつなげることを目指して、生涯学習センターを拠点として、市民の多様な学習ニーズに対応する学習機会を提供します。

2017 年度については、当該事業の中で、植樹体験や森の探索

を通じ、自然の役割について学ぶ「森の学校」や、ミツバチの生態から身の回りの自然環境について考える「ミツバチがつくるサッポロ」といった、自然や生物との共生に関する講座を計 6 講座実施し、市民に対して、自然環境についての理解・関心を高める機会を提供しました。

g 出前教室

小中学生を対象に、ごみの出し方・分け方やリサイクルの仕組みとごみ減量化の取組について理解を深めるため、「出前教室」を実施しています。2016 年度は、74 回実施しました。



さっぽろこども環境コンテストの様子

(2) 環境側面からの経済振興

ア 産学官の共同研究の取組

札幌市では、1998 年度から大学等の持つ技術を有効に活用して地元企業の技術・製品開発を支援していくため、産学官共同研究を推進するモデル事業を実施し、産学官連携の組織や体制づくりの基礎を固めていきました。モデル事業としては、「冬期路面の解氷技術に関する研究」を北海道大学に委託し、2000 年度には地元企業を加えた研究成果の事業化を進め、更に 2001 年度には、「踏みだけで容易に雪氷を砕くゴムマット」の実用化を図りました。

また、2002、2003 年度には、「食品残さを利用した低廉・安定的な飼料・堆肥製造装置の開発」についての、実用化に向けた支援を行いました。

2005 年度より北海道大学と共同研究で、地中の熱を暖房に利用する「地中熱ヒートポンプシステム」を札幌市立大学桑園キャンパスに導入し、実証評価を行いました。

また、2005 年度より 2009 年度は産業技術総合研究所、市立大学との共同研究で、マイクロガスタービンコージェネレーションシステムと蓄熱暖房を組み合わせたシステムを札幌市立大学芸術の森キャンパスで実証実験を経て本稼働をしています。また、札幌市役所本庁舎においても、流動抵抗低減剤による冷暖房システムの省エネルギー実証実験後、本稼働をしています。

2012 年度からは、札幌の特色を活かした環境・エネルギー産業の創出・拡大を図るため「札幌発の環境産業創出事業」を実施しており、2012 年度は市内の大学等研究機関と市内企業等で構成された 4 件のコンソーシアムに対し、調査・研究業務を委託しました。2013、2014 年度は、そのうち成長が期待される案件について、実証実験・製品開発への補助事業を実施しました。

イ 事業者の取組

(ア) 札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業

札幌市内でもカーシェアリング事業、ヒトデからの消臭剤の開発、廃食油を自動車燃料（バイオディーゼル燃料）に再利用するなどのエコビジネスに積極的に参入している事業者があります。

札幌市では、カーシェアリングにおける新課金システムの開発や寒冷地対応バイオディーゼル燃料の開発に対して補助金による支援をしています。

また、札幌ならではの環境産業の振興のため、「札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業」により、新製品・新技術開発や実証実験に対する補助金による支援を実施しています。

(イ) 札幌型省エネルギービジネス創出事業

札幌市では、本州と比べて冬季の熱需要が多いという特徴に着目し、札幌型の省エネルギー手法を市内の中小施工事業者の新たなビジネスとして創出するため、その核となる省エネルギーの総合窓口の構築及び運営を担う事業者に対して補助を実施しています。これにより、省エネルギーの顧客となる市内事業者のエネルギーコスト削減及び担い手となる市内中小施工事業者の収益向上、更には、札幌市全体の CO₂ 削減の 3 点が実現することを目指しています。

(ウ) 環境保全型農業の推進

豊平川河川整備事業で発生する泥炭土および家庭ごみの枝・葉・草を原料とした堆肥を農地に施用することにより、土壌改良を図る事業を推進しています。

(エ) さっぽろとれたてっこに関する取組の推進

JA さっぽろ等との連携により「さっぽろとれたてっこ」認証制度を実施し、安全・安心向上や環境負荷の低減に取り組む生産者の拡大を図っています。また、こうした生産者が栽培した農産物の地域内流通を促進するための取組（とれたて便や学校給食等での取扱い）を実施しました。

(3) 環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進

ア 未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業等

札幌市では、各区において「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」を実施しており、各区内の企業・団体が区と覚書を交わし、道路清掃などの環境美化活動を行うアダプト・プログラムや、河川の清掃運動、街路ます等への植花運動などのほか、各区特色のある取組を実施しています。また、当該事業のほかにおいても環境保全等に関する様々な取組を実施しています。

たとえば中央区では、藻岩山登山を通して自然に親しむことで先人の残した豊かな自然を守る意識を高める「アタック・ザ・531M」や、旭山記念公園の自然を活用した観察会等の「環境体験学習」の支援等を実施しました。

東区では、かつて北8条通にあった麻布の紡績工場やビール工場の歴史、文化、風土を活かした活気あるまちづくりを目指し、2004年度から亜麻とホップの植え付けを地域団体が主体となって実施する「アマとホップのフラワーロード事業」や、モエレ沼公園と市街地を結ぶ三角点通りなどの路線を、地域団体と各町内会や商店街が連携して、花による魅力ある街並みづくりを実施する「札幌フラワーロード事業」を実施し、それに併せ一年草や宿根草の配布を行うなど、景観づくりを通じて地域の連携・連帯の促進を図りました。地域主体の取組に対しては、栄東地区子ども未来会議が実施する栄東地区まちづくり活性化事業への支援を行っており、その一つとして地域住民や地元企業が参加して地下鉄栄町駅周辺等に花を植えたプランターを設置する「花いっぱいプロジェクト」を実施しました。また、丘珠地区で連合町内会、老人クラブ等の地域住民が協力して、花壇への花植えを行う「丘珠ふれあいセンター美化活動」への支援を行いました。

白石区では、地域の関係団体とともに「月寒川にぎわい川まつり」を開催し、子どもたちが地域の身近な自然に触れ、川の生態系の観察や水環境についての認識を深めるとともに、自然環境について考えるきっかけを提供しました。

厚別区では、「夢市場あつべつ」を開催し、リサイクル意識を高めるためのフリーマーケットによるリサイクル品の販売や、障がい者授産施設の作品即売、家具等のリサイクル品販売、植樹用苗木の作成ワークショップ、環境かるた大会の開催などを行っているほか、区民の緑化に対する意識を高め、花と緑のまちづくりを進めるため、花のまちづくり応援事業として、学びの場としての「あつべつ花フェスタ」や「ガーデニング入門講座」、活動を披露する場としての「厚別区フラワーガーデニングコンテスト」など、各種の事業を行いました。

また、あつべつ区民協議会やまちづくり会議支援事業をととして、地域の花いっぱい運動に取り組む団体に花苗の提供を行いました。

豊平区では、美しい街並みを目指すとともに地域の連帯やふるさと意識を育むことを目的とした「とよひら HANA-LAND 事業」を実施しました。事業には、地域住民をはじめとする多くの方々が参加し、区内を約 70,000 株の花で彩りました。

また、とよひらまちづくりパートナー制度に参加する企業等が町内会と連携して植花活動や清掃活動等を行ったほか、アダプト・プログラム支援事業においても、道路清掃等の環境美化活動を行いました。

清田区では、NPO 法人札幌清田ホテルの会、平岡小学校との協働による「ホテル幼虫放流式」、ホテルの会との協働による「ホテル観賞会」を区役所裏のホテル池でそれぞれ実施しました。

南区では、落葉・剪定枝の利用及び堆肥化を通して、地域内みどり資源の活用とリサイクルを促進するとともに、そのみどり資源を利用した循環型モデルガーデンへの支援を行いました。

また、「真駒内駅前花いっぱい事業」として、南区の玄関口である真駒内駅前花壇を花で彩ることにより、区民や南区を訪れる方々が安らげる魅力ある空間を創造するとともに、南区に賑わいをもたらすきっかけづくりを行いました。

さらに、緑苑大学で実施している高齢者教室の中で「園芸」、「自然ウォッチング」の講義を実施し、環境に関する意識の向上を図っています。2017 年度は園芸 49 人、自然ウォッチング 49 人の参加がありました。

西区は、市内唯一の環境モデル区（2007 年度からは環境推進区）として、地域住民、学校、企業、NPO 法人などからなる「西区環境まちづくり協議会」が中心となって、環境活動に取り組んでいます。

取組内容は、西区の自然を生かした自然体験教室「エコキッズ・プログラム」や「西区コードモ自然学校」、使用済み天ぷら油の独自回収など、数多くの環境に優しい取り組みを実践するとともに、わかりやすい情報の提供や環境活動への参加促進を図りました。また、12 月には札幌市生涯学習総合センターちえりあにおいて、ゲームやクイズなどの参加を通じ、楽しみながら環境について学ぶ体験型環境イベント「西区子ども環境広場」を開催しました。この催しでは、子ども環境活動発表会などのステージイベントの他、環境ゲームや地産地消のお菓子の試食会、発電実験、エコ工作やリサイクルをテーマとしたおもちゃの交換会など多彩なブースを出展し、子どもから大人まで、多くの区民が来場しました。

イ 環境に関わる講座・見学会関係事業

身近な植物への理解を深めてもらうため、都市公園における植物や鳥などを観察する観察会を実施しています。

たとえば、手稲区では日本スズランやミズバショウなどの観察会を毎年行っています。

その他、清掃施設見学会の実施、さけの採卵実習などを行っています。

(4) 環境影響評価（環境アセスメント）制度

ア 札幌市環境影響評価条例

環境影響評価（環境アセスメント）制度とは、事業者が大規模な開発事業を行う前に、あらかじめその事業が環境に与える影響について調査・予測・評価を行ってその結果を公表し、市民や行政の意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げていこうという制度です。

公害の防止や自然環境の保全、地球温暖化をはじめとする地球環境問題への対応等を図るうえで非常に重要な手法の一つといえます。

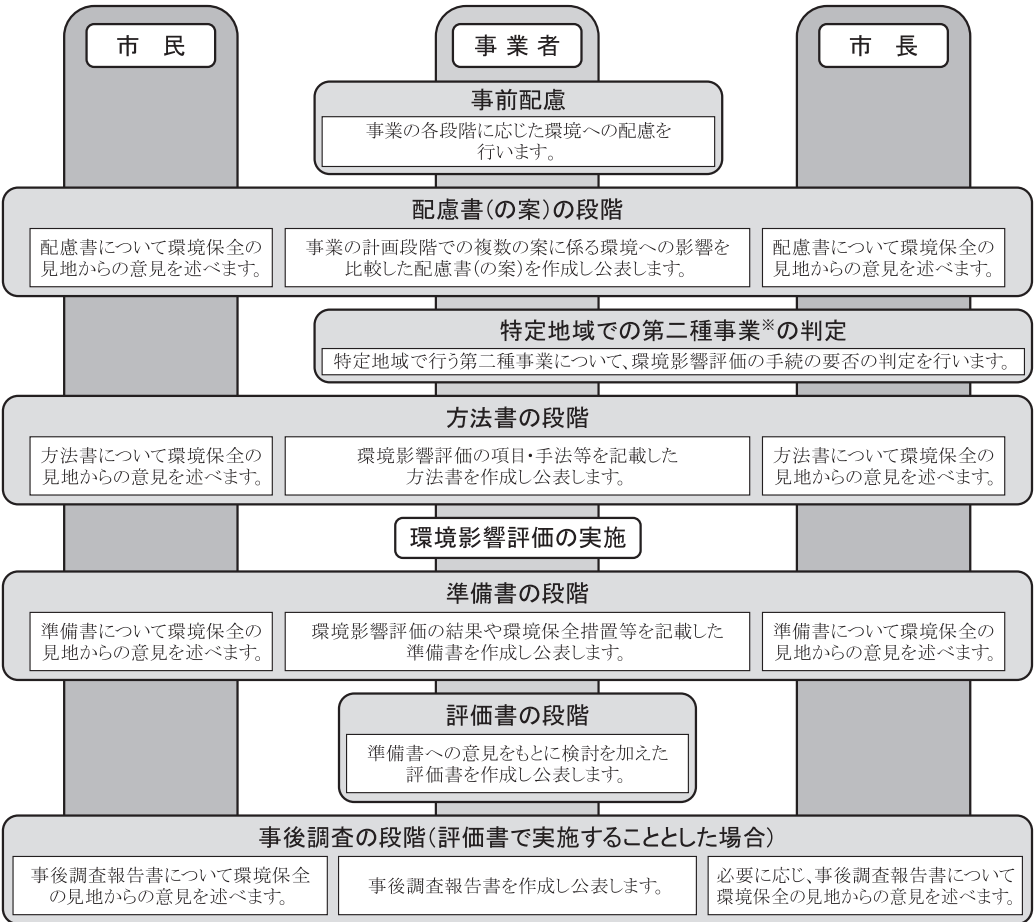
札幌市では、1999年12月に「札幌市環境影響評価条例」（以下「アセス条例」という。）を制定、2000年10月1日から施行しています。また、2013年6月には一部改正、同年10月から施行しています。

図2-5-1にアセス条例の手続の流れを示します。一連の手続では、事業者の作成した配慮書等の関係図書について、市民が環境の保全の見地からの意見書を提出する機会が設けられていると

ともに、市長は事業者に対し環境の保全の見地からの意見を述べることとなっています。

アセス条例の主な特徴は①対象事業の規模要件を環境影響評価法及び北海道環境影響評価条例より小規模なものとする他、②環境影響評価法及び北海道環境影響評価条例に規定していない大規模建築物、下水道終末処理場、土石採取事業、特定工場を事業種に追加していること、③特に環境の保全に配慮する必要がある「特定地域」を定め、特定地域内で第二種事業（第一種事業より小規模な事業）を行う場合には、手続の要否の判定を個々に行うこと、④事業の計画段階から環境に配慮すべき事項を環境配慮指針として定め、これに基づく事前配慮を事業者に義務付けていること等です。

環境影響評価を通じた適正な環境への配慮、良好な環境の確保のためには、市民、事業者及び市の連携・協働が不可欠です。



第二種事業:第一種事業(環境影響評価の手続きを必ず行う事業)の約4割の規模を有する事業

(資料)札幌市環境局

図2-5-1 札幌市環境影響評価制度の手続の流れ

イ 環境影響評価の手続状況

環境影響評価法及び札幌市環境影響評価条例による、2017年度末現在の手続状況は、表2-4-3のとおりです。

表2-4-3 札幌市環境影響評価条例の手続状況

区分	事業名	事業者	事業の概要	手続の進行状況
法対象	北海道新幹線（新青森・札幌間）	日本鉄道建設公団	起点：青森市 終点：札幌市 事業延長：360km（札幌市内は17km）	方法書受理：1998年10月 方法書についての市長意見提出：1999年1月 準備書受理：2000年6月 準備書についての市長意見提出：2000年11月 評価書受理：2002年1月 事後調査報告（札幌市に係るもの）：2017年6月～
	仮称）北部事業予定地一般廃棄物最終処分場	札幌市	位置：東区中沼町127番地 他 埋立面積：25.4ha	方法書受理：2007年2月 方法書についての市長意見提出：2007年6月 準備書受理：2012年11月 準備書についての市長意見提出：2013年4月 評価書受理：2014年7月
	石狩湾新港発電所建設計画	北海道電力株式会社	位置：小樽市銭函地先及び石狩市新港中央4丁目 発電所出力：160万kW程度	方法書受理：2012年2月 方法書についての市長意見提出：2012年6月 準備書受理：2013年10月 準備書についての市長意見提出：2014年1月 評価書受理：2014年3月
市条例対象	真駒内滝野霊園拡張事業	㈱ふる里公苑	位置：南区滝野80番地1 他 面積：73.5ha	方法書受理：2003年3月 方法書についての市長意見提出：2003年8月 準備書受理：2004年9月 準備書についての市長意見提出：2005年2月 評価書受理：2005年5月 事後調査報告：2006年4月～ 2013年4月
	屯田・茨戸通	札幌市	始点：北区屯田町 終点：北区東茨戸 車線数：4車線 事業延長：5.7km	方法書受理：2003年4月 方法書についての市長意見提出：2003年9月 準備書受理：2005年7月 準備書についての市長意見提出：2006年2月 評価書受理：2006年3月
	厚別山本公園造成事業	札幌市	位置：厚別区厚別町山本1065番地 他 面積：52ha	方法書受理：2008年10月 方法書についての市長意見提出：2009年2月 準備書受理：2011年9月 準備書についての市長意見提出：2012年3月 評価書受理：2012年6月
	（仮称）札幌創世1.1.1区北1西1地区第一種市街地再開発事業	札幌創世1.1.1区北1西1地区市街地再開発準備組合	位置：中央区北1条西1丁目 延べ面積：12.79ha 高さ：154m	方法書受理：2012年10月 方法書についての市長意見提出：2013年1月 準備書受理：2013年6月 準備書についての市長意見提出：2013年11月 評価書受理：2014年2月 事後調査報告：2018年3月～
	（仮称）北8西1地区第一種市街地再開発事業	札幌駅北口8・1地区市街地再開発準備組合	位置：北区北8条西1丁目 延べ面積：15.1ha 高さ：180m	方法書受理：2012年10月 方法書についての市長意見提出：2013年1月 準備書受理：2013年9月 準備書についての市長意見提出：2014年4月 評価書受理：2014年8月
	駒岡清掃工場更新事業	札幌市	位置：南区真駒内129番地3 他 処理能力：600t/日	配慮書受理：2015年6月 配慮書についての市長意見提出：2015年11月 方法書受理：2016年5月 方法書についての市長意見提出：2016年10月 （以下継続中）